



戻りたいと
住んで良かったと思える
政策の実現へ

よしだ じゅん
吉田 淳

大熊町長

昭和31年(1956)、大熊町生まれ。
1979年、大熊町役場に入庁。
生涯学習課長、教育総務課長、総務課長、大熊町副町長を歴任し、
2019年11月より大熊町長を務める。

「逆境の中でも、町民の皆さんが少しでも安定した生活ができるように」。役場職員として原発事故による全町民避難の誘導にあたる上で心掛けていたことです。

町民の方の要望を聞き、生活環境などに差が出ないように気を配りながら考え、行動してきました。最終的に会津若松市に約4,000人が避難。会津若松市からは市内の旅館やホテルを提供していただきました。会津の皆さんには大変ご尽力いただき、大熊町の小中学校を立ち上げ、整った教育環境で子どもたちは学ぶことができました。

2019年から町長として町政にあたっています。

「戻りたい方」「戻ってきている方」「戻らない方」それぞれの選択がありますが、町に戻るための環境を整備することを第一としています。

戻ることができない方にも「故郷を思う気持ち」を持ち続けていただけるように、新たに町民となる方には「移住して良かった」と思える政策を実現していきます。昨年、2050年までに二酸化炭素の排出を実質ゼロにする「2050ゼロカーボン宣言」を行い、今後の町が目指すべき道を示すことができました。

これからも大熊の再生のために魅力ある町づくりを進めてまいります。



2019年8月、大熊町に開所したイチゴ栽培施設「ネクスファームおおくま」で実ったイチゴ